藤女子大学
藤女子短期大学

No.36

図書館だより

'89.12

芥川賞・直木賞受賞作コレクション

芥川賞第1回(1935年上期)受賞
石川達三『蒼氓』改造社 1935.10.29 6版

直木賞第1回(1935年上期)受賞
川口松太郎『鶴八鶴次郎』新紀元社版

＊コレクションの紹介記事は6ページにあります

目　次

図書館あれこれ　高橋雅晴…… 2
『藤女子大学図書館
　雑誌目録1987年版』刊行のお知らせ…… 3
自著を語る
　『源氏学序説』　藤村潔…… 4
　『子どもと家族』　飯村しのぶ…… 4
新収資料紹介
　芥川賞・直木賞受賞作コレクション…… 6
同窓生の著作
　『働きながら子育てするお母さんの本』
　　越膳百々子…… 6
新入職員紹介
　内藤美雪・林七枝…… 7
藤に咲く花　14　シクラメン…… 8

図書館あれこれ

高橋 雅晴（英文学科）

欧米の図書館を訪ねた時の様子とその時感じた事などを簡単に記し参考に供したい．最近，カリフォルニア・ホームステイ参加の学生に同行した際，訪れたのがTustine Public LibraryやSanchiago College Libraryで，ここでは備え付けのタイプライターをよく利用した．またカリフォルニア大学Irvine校ではUniversity ExtensionのDerectorと会い，本学とのExchange Programが話題になったこともある．

11年前の海外研修で滞在したアリゾナ州ではTucson Public Libraryをよく利用した．そして大学の，Science Library－Oriental Collectionには２日遅れではあるが日本の新聞や週刊・月刊誌，辞典類，文学全集から漫画「サザエさん」，「暮しの手帖」等にいたるまで揃えてあった．研修先のアリゾナ大学のMain Libraryで印象に残ったことは開館時間である．（月～木）午前７時～午前２時，（金）午前７時～午後９時，（土）午前９時～午後９時，（日）午前１０時～午前２時となっていたが現在もほとんど変わらない．特に日曜日の開館時間については月曜日の講義（午前７時開始のコースもある）の準備にあてられるのだろう．試験期間は更に時間延長がある．確かにこの開館時間は講義開始前と終了後に利用する場合が多いことを重視しているものと思われる．先日，日本図書館協会が今年４月に調べた公立図書館の夜間開館の現状が新聞に紹介されていた．それによると全体の３７％が午後５時以降も開いていた．ただ，夜間の開館でネックになるのが職員の労働強化の問題であるが，アメリカの大学でよく見られるように，アルバイト学生を大幅に採用するのもひとつの解決策になるかもしれない．

また館内で友人とのdiscussionが必要な場合があるが，そのような時は話し声が他の人に迷惑にならないようなgroup study roomがあった．すでに札幌市内の他大学では新築の際に設置してあり，よく利用されている．

他の設備としてはビデオ・オーディオテープの視聴ができるオーディオ・ビジュアル・ルームあるいはコーナーがあると良い．

研修中夏期休暇を利用しグレイハウンド・バスで２か月間，資料収集のためにカナダ・アメリカの大学図書館を巡った．カナダのToronto大学の図書館は１０階建てでホールにはエスカレーターがあり，日本のデパートに相当する大きさであった．ここではOld Englishのコンピューターによる辞書編集が行われていて1985年の完成を予定していたがいまだに未刊である．北米ではArizona State University，Pima College，UC Berkeley，UCLA，Stanford，St. Louis，Northwestern，Brown，Yaleを

アリゾナ大学中央図書館

訪ねた．この中で大学・大学院の同期生で３０代の若さで他界した友人が１年間研修のため滞在したYaleを訪れたときは小雨まじりで感慨深いものがあった．この他，特にHarvard，Princeton，Columbia，Miamiの各大学図書館では貴

重な資料を入手し，紀要論文の基礎資料として活用した．

イギリスではBritish Library, Oxford UniversityのBodleian Library, London大学を訪ねる事ができた．因に札幌市内のある大学図書館が１０日間（これは日本の国立国会図書館から借用する場合と変わらない日数）でBritish Libraryから本を借りる道内唯一の「センター」となっており，この点随分と便利になったものだ．

上記カナダ・アメリカ・イギリスいずれの図書館でもOld・Middle English・英語史に関連した文献・資料をノート，図書カードに書き写し，図書館の様子をビデオ・テープ，スライド，写真に収めたが，それらは現在，研究室に保存してある．手元のノートやカードを検索すると例えば詩人Chaucerに関する資料はどの大学が所蔵しているか，一目でわかるようになっている．

ところで現在は，コンピューターを駆使することにより，居ながらにして世界中を相手に文献調査ができるようになった．コンピューターに蓄積された情報の集積をデータベースというが，図書館関係で世界最大とされるのがオハイオ州にあるOnline Computer Library Center (OCLC)である．このデータベースには英語圏を中心として300以上の言語からなる2000万件を超えるレコードがあり，26か国，7000以上の図書館などがメンバーとして利用している．目録を作るのが仕事の中心だが，同時に所蔵館の登録がされるので，必要な文献の所在を確認し，コピーの入手や現物の借用が可能である．この他にも国内外で様々なデータベースがサービスを提供している．今後は情報収集・文献入手の手段として，コンピューターの利用はより有効さを増すだろう．現に図書館の世界では，なじみの深いカード目録が姿を消し，替わってコンピュータの端末で資料を検索するケースが徐々に増加している．

「巨大な記憶装置」と呼ばれる図書館の機能は今後も変わりがないが，いま注目を集めている「滞在型図書館」は居住性の良さが追求されている．例えば館内の設備や雰囲気も大事であるが，さらに，潅木が茂り，ベンチやテーブル，藤棚が設けられ，開架室から自由に出入りできる広い「図書園」はできないものだろうか．

『藤女子大学図書館雑誌目録　1987年版』　刊行のお知らせ

長らく予備版でご不便をおかけしていましたが，この6月，ようやく『雑誌目録 1987年版』を刊行しました．

この目録には1988年3月末現在で図書館で所蔵する和洋雑誌・新聞類3,423タイトルを和文誌名編と欧文誌名編とに分けて収録しています．巻末には「出版者索引」を付けました．雑誌名の記憶が不確かでも，この索引によって出版者・編者・監修者などからアプローチできる便利なものです．目録は書庫内の雑誌架付近その他館内各所に置いてありますので，どうぞご利用ください．

なお，この目録以後の新しいデータは別に用意してありますので，ご覧になりたい方は調査・案内カウンターでお尋ねください．

自著を語る

『源氏学序説』　笠間書院　1987刊

藤村　潔　(国文学科)

書評を書かされたことはあるが，自著について何か書けと注文されたのはこれが初めてだ．『源氏物語99の謎』（藤本泉著・昭和51年・産報）という書物がある．源氏物語は紫式部が書いたものではなく，多数作者の合作で，紫式部日記も本人の書いたものではない…という驚くべき内容であるが，専門家側からは，黙殺されたままになっている．

藤本泉さんは99番目の謎で，源氏物語の謎は99どころか999としてもまだ足りないとして，その原因の一つに，根本の謎をとかないで枝葉ばかりを問題にする専門家の目がかかわっているとする．専門の研究者は恩師の説に逆らうと，良い地位が得られないばかりか，職を失う憂目にさえあいかねないのだともいうのである．

藤本さんの著書には「紫式部は本当に実在したか」という副題が付けられているが，紫式部の実在を疑わなければならない理由は示されていない．専門家の負うべき責任は紫式部が実在したか否かについてではなく，源氏物語や紫式部日記の本来の形態についてであろう．その点で戦後の研究には問題がある．なかでも成立過程に目をつぶって主題を論じたいわゆる王権論者の責任には，重いものがある．

『源氏学序説』の根底には，上記のような戦後の研究に対する反省と批判があった．考察を

源氏物語の巻数や本文，紫式部日記の形態に引き絞ったゆえんであり，それはまた，書名を『源氏学序説』と命名した理由でもある．

藤村先生の著書　＊標記以外の単行本のみ

源氏物語宇治十帖の研究　上田書店　1956
源氏物語の構造　　桜楓社　1966
源氏物語の構造　第２　赤尾照文堂　1971
源氏物語の研究(構造　第３)　桜楓社　1980
源氏物語主題論争　桜楓社　1989　大朝雄二氏と共著

自著を語る

『子どもと家族』　ミネルヴァ書房　1988刊　(共編著)

飯村　しのぶ(家政科)

家庭における教育費支出については，よく“投資性”ということがいわれる．

教育投資の考え方は，1950年代アメリカにおける能力開発論，人的資源論に始まるとされる．当時のアメリカでは，「優秀な将兵の選別と養成という軍事政策と，海外援助計画の効率化」といった現実的課題をかかえ，「人間の能力を標準化し，細分化し，系列化することによって，

開発の効果をあげようとした」ものとされる（中内敏夫：学力とは何か，岩波，1983年）．この考え方がわが国に登場するのは，1960年代「所得倍増計画」でスタートをきった高度経済成長期以降である．当時の経済審議会答申，「教育訓練小委員会報告」のなかにこうした考え方が述べられている（横本宏：今日の教育費の意味とその性格，国民生活研究，Vol.26,No2,1986年）．つまり，経済発展にあたっては，まずそれをリードする“人的能力の開発”が必要であり，したがって経済競争のためには教育競争が必然化されるとした．こうしてわが国の教育にも能力主義，エリート主義，効率主義がもち込まれることになり，それ以後の教育産業の隆盛を導くもとになっていったとされる．

教育に経済活動と同じような投資効果を期待することは誤りであるとは，誰もが認めるところであろう．にもかかわらず今日の日本社会においては，高学歴＝高所得，高社会的地位といった図式は成り立っているのもまた事実である．

こうした状況は，こんにち，私たち家庭における教育費負担を非常に重くしている．文部省調査に基づくモデル計算によれば，子ども1人が幼稚園から大学卒業までにかかる教育費は，

すべて公立の場合で総額約620万円，義務教育以外をすべて私立とするとその金額は約1200万円にも及ぶ．また学校教育費以外に，けいこごとや補助学習費といった家庭教育費の負担増加がさらに問題を大きくしている．大学生への仕送り金は現在，月10万円くらいが平均とされているが，東京で私立大学・自宅外通学ともなれば，大学の４年間だけで１千万円近くはかかってしまう．もっとも入学時だけですでにそのくらいかかる大学もあるらしい．こうした数字を子ども２人の標準世帯にあてはめて考えてみると，ほぼ世帯主52歳前後の時期に家庭の教育費負担はピークをむかえることになる．この時，子ども２人にかかる教育費の総額は月収のおよそ35％くらいをしめる．いわゆるエンゲル係数よりも教育費の支出割合の方が高くなってしまう．これでは，食費を削ってでも教育費に回さなければならなくなるわけだろう．このような状況にもかかわらず依然として，親が子どもに託す夢と期待は大きい．もっとも一般サラリーマン世帯にとっては，親が子どもに残せる財産は“教育だけ”といった声もよくきかれる．

一方，投資効果の方はどうだろう．高学歴であることの経済的メリットは近年低下してきているといわれている．大卒者が高卒者の累積所得に追いつく年齢は年々遅れ，今では40歳を越えている．また，生涯収入の格差も縮小傾向．初任給や昇進機会のひらきもさほどではなくなってきている．今年は就職試験で出身大学名を書かせないという大企業も出てきた．とすると，もはや教育に投資効果を期待する意味は薄れてきているのではないだろうか．そろそろ教育本来の目的に立ちもどって，学歴偏重社会というブラック・ホールから抜け出すことを真剣に考えなければならない時代のように思う．

新収資料紹介

芥川賞・直木賞受賞作コレクション

日本の数ある文学賞の中でも最もポピュラーな芥川龍之介賞・直木三十五賞が，昨1988年下期でちょうど100回を迎え，種々の記念行事等が行われたのはまだ記憶に新しいところです．また，その100回目の直木賞を本学卒業の藤堂志津子さん（本名・熊谷政江　短大国文科1969年卒）が受賞されたのもご承知のとおりです．本学出身者がこのような歴史と重みのある賞の受賞者リストに名を連ねたのは大きな喜びです．

ちょうどこの時期に，図書館としても芥川賞・直木賞の第1回から第98回までの受賞作コレクションを入手するという思わぬ好運に恵まれました．純文学対象の芥川賞だけでも大変ですが，大衆文学の直木賞の揃いはもっと難物です．なにしろ，本家の文芸春秋にも完全な揃いは無いというくらい難しいコレクションなのです．今回入手したコレクションも全部が初版初刷ではありませんし，2点ほど欠けているものもあります．それでも6段の書架いっぱいに収められたコレクションの前に立つと，昭和の文学史そのものといった重圧感がひしひしと伝わってきます．また，時代とともに本の持つ雰囲気が変わるのが分かり，眺めているだけでもなかなか良いものです．

第100回までに芥川賞受賞者がぴったり100名，直木賞は111名ですが，各賞には辞退者が1名づついます．芥川賞は高木卓（第11回，1940年上期），直木賞は山本周五郎（第17回，1942年下期）です．このコレクションには対象となった作品『歌と門の盾』（高木），『日本婦道記』（山本）の2冊がちゃんと収められています．

芥川賞・直木賞の創設は1935年（昭和10）です．したがって，半世紀ほど以前の本，太平洋戦争直後の出版事情の悪い時期の本などで傷み始めているものもあります．そのため，利用と保存の兼ねあいが難しく，現在，整理方法・利用方法を検討中です．利用まで今しばらくお待ちください．

なお，第99回以降のものについても，もちろん，継続購入して行きます．

同窓生の著作紹介

越膳　百々子

『働きながら子育てするお母さんの本』

読売新聞社　1989.5刊　河合洋と共著

働く女性がふえているのに，子育てをしながら仕事でも頑張っている人は意外に少ない．一方，職場復帰はしたものの孤立無援の中で疲れきって職場を去る女性があとを絶たない．越膳さん自身が育児と仕事の両立の難しさを体験し，どうしたら子どもにとって良い環境をつくりつつ，自身のキャリアを積み上げていくかを考え，多くの働くお母さんたちの話をもとに，小児精神医学の河合先生とまとめたのがこの本です．越膳さんはこれらの体験や知恵が，次の世代に受け継がれるようにするのが自分の義務であるとして，熱いメッセージを送っています．いずれ母になる皆さん，ぜひご一読ください．

越膳さんは1977年春，文学部国文学科を卒業，雑誌の編集に携わった後，結婚を機にフリーになりました．1985年にキッチンと撮影室を備えた「食のスタジオ」を設立し，以後その主宰者として活躍しています．著書に上記の外『ハッと驚く電子レンジ料理術』『健康づくりの食事学入門』『らくらく離乳食ブック』があります．一女の母．

新入職員紹介

内藤 美雪（奉仕部）

奉仕部につとめて，2か月がたちました．学生時代に利用する側から考えていた図書館のイメージは実際に働いてみると違っていました．私の図書館第1日目は年に1度の恒例の蔵書点検で始まりました．（閉館しているときはお休みだと思っていた！） 貸出カウンターは，休み明けとなると返本が次から次ときて山のようにたまり，それを1冊1冊チェックして押し車につんで所定の場所にもどすのです．レポート提出や試験が近づくと全く違った場所に本がおかれていたりします．学生のみなさん，使い終わったら元の場所に本をもどして下さると，とても助かります．

私の趣味は，大学に入ってから始めたテニスとおいしいと噂の入ったお店などの食べ歩きです．町で大きなパフェをほおばっている私を見かけたら「図書館のお姉さん！」と声をかけて下さいね．

毎日図書館の勉強をしている状態で，学ばなければならないことが一杯ですが，わからないことなど気軽にどんどん聞いて下さい．たくさんの本に囲まれ，あらゆる本を読めとても幸せです．1冊の本に励まされたり，自分の考えの方向が固まったり本というのは不思議で，そしてすばらしいものだと思います．私は，今，学生時代に読書量が少なかったことの埋め合わせをしているように感じます．学生のみなさん，どうぞたくさんのすばらしい書物と出会って下さい．

（1989. 9. 1 採用）

林 七枝（Sr.アンジェリス）（整理部）

名乗れるほどの何も持ちませんが，聖書と共にあることで充ち足りている図書館勤めです．まわりの方々のような円熟したライブラリアンとなるには，もう残された時間と力では間に合いませんので，新入者として皆さんの職場の生態点描を試みました．

受け入れた一冊が，それぞれの場所を占めるまでの注意深い丁寧な世話．本を通しての互いの気配りと共働作業．本をめぐっての約束ごとを大切にし，しきたりを守る気風．明るくて静かなマメマメしさ．何よりも，時間をかけて本を愛している人の集まりです．

聖なるみ言葉に傾倒していたフランシスコが，人の手で書かれたどんな文字も決して捨てず，尊いものとして扱ったことと思い合わせて自分を省みる此の頃です．

いつか館長O先生に「牢[ロウ]名主」と言われて，とっさの頭に浮かんだ「老[ロウ]」の字を我が身と思い過ごし，その通りです，と自認してしまいました．この名は，書庫一層の闇から，隠された偉大な力で本学にいる私たち一人々々を守って下さる聖書の主に謹んで返上いたします．

自己紹介とはむつかしいもの．普通一般にシスター，と呼ばれる存在に，共にある自分の場と安らぎを見出す私です．

（1989. 4. 1 採用）

藤に咲く花　14

シクラメン
Cyclamen persicum Mill.

真綿色したシクラメンほど
清しいものはない
出逢いの時の……

この「シクラメンのかほり」が大ヒットしたのは1975年のこと．であれば，当時の乙女たちは今，子育ての真っ最中の筈．Evergreenは今も変わらないだろうか．

シクラメンはクリスマスの頃から早春にかけて，赤，白，ピンクの美しい花を咲かせる．原産地はギリシァからシリア地方．日本への渡来は明治の始め頃といわれる．花の名はギリシァ語のキクロス(円形)によるが，語源としては葉がまるいから，野生種の花柄が曲がるから，実のついた茎がラセン形になるからなどの説がある．野生種の英語名はsowbread，シチリア島で野生のブタがその地下茎を食べ荒していたことからつけられた名で，日本ではそれをブタノマンジュウと訳した．が，あの美しい花に対しそれではあんまりだと，のちに，かの牧野富太郎博士が，和名をカガリビバナとした．イメージはよく分かる．昔，この花は，聖地パレスチナでは聖母マリアに捧げられたものらしい．花言葉は内気，はにかみ，先見，深慮，嫉妬等．

参考資料　『花ことば　花の象徴とフォークロア　1』　春山行夫著　平凡社　1986　627/H34/1
『花の神話と伝説』　C. M. ｽﾀﾅｰ著　八坂書房　1985　470.4/Sk3
写真は『花ごよみ　冬の花』　浅山英一解説　夏梅陸夫写真　創元社　1982　より転載

◎卒業する皆さんへ　図書館の利用を！

あなたの在学中，図書館はお役に立ちましたでしょうか．年々充実してきているとはいえ，図書や雑誌はまだまだ不足ですし，近年新しい図書館を建てた大学に比べ，施設・設備も必ずしも便利快適とは申せません．それでも毎年，道内ではダン突の貸出数(学生一人当り)を記録しているのは，皆さんの熱心な図書館利用のおかげと心より感謝しております．

ところで，図書館は卒業後も，学生時代と同じように利用できるのをご存じでしょうか．数年前に卒業生の図書館利用をオープンにして以来，実に多くの方々にご利用いただき，好評を得ております．

身分を証明するものがあれば，すぐその日からご利用いただけます．手続きは簡単，もちろん無料です．勝手知ったる図書館です．お気軽においでください．

藤女子大学
藤女子短期大学　図書館だより　第36号　1989.12.20

発行者　札幌市北区北16条西2丁目　藤女子大学図書館
TEL 011-736-0311(代)　FAX 011-709-8541(大学庶務課)